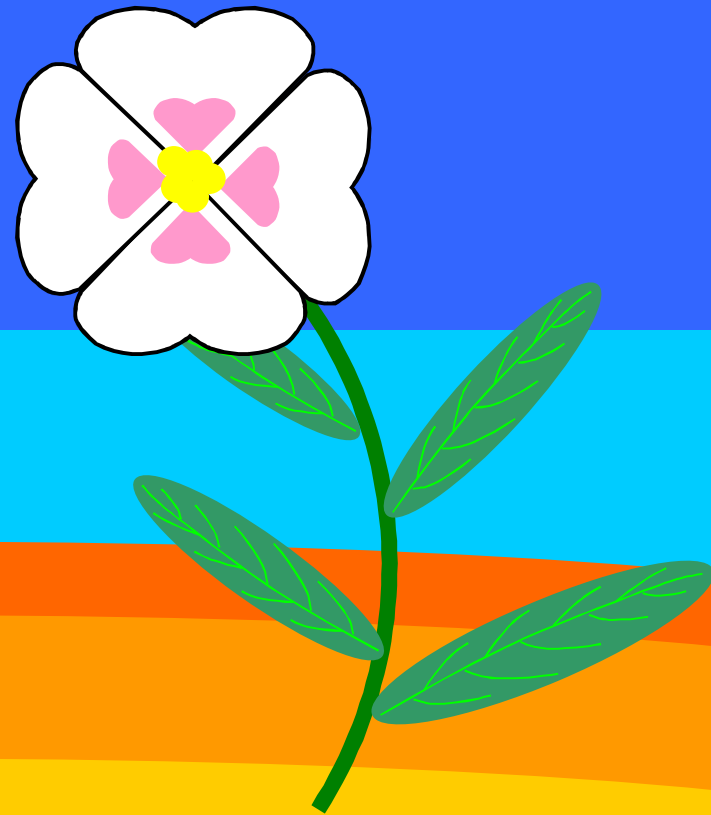


きらわれ ライオンと

いちいんの はな



裏表紙

さく・え 幸徳環境設計

表紙

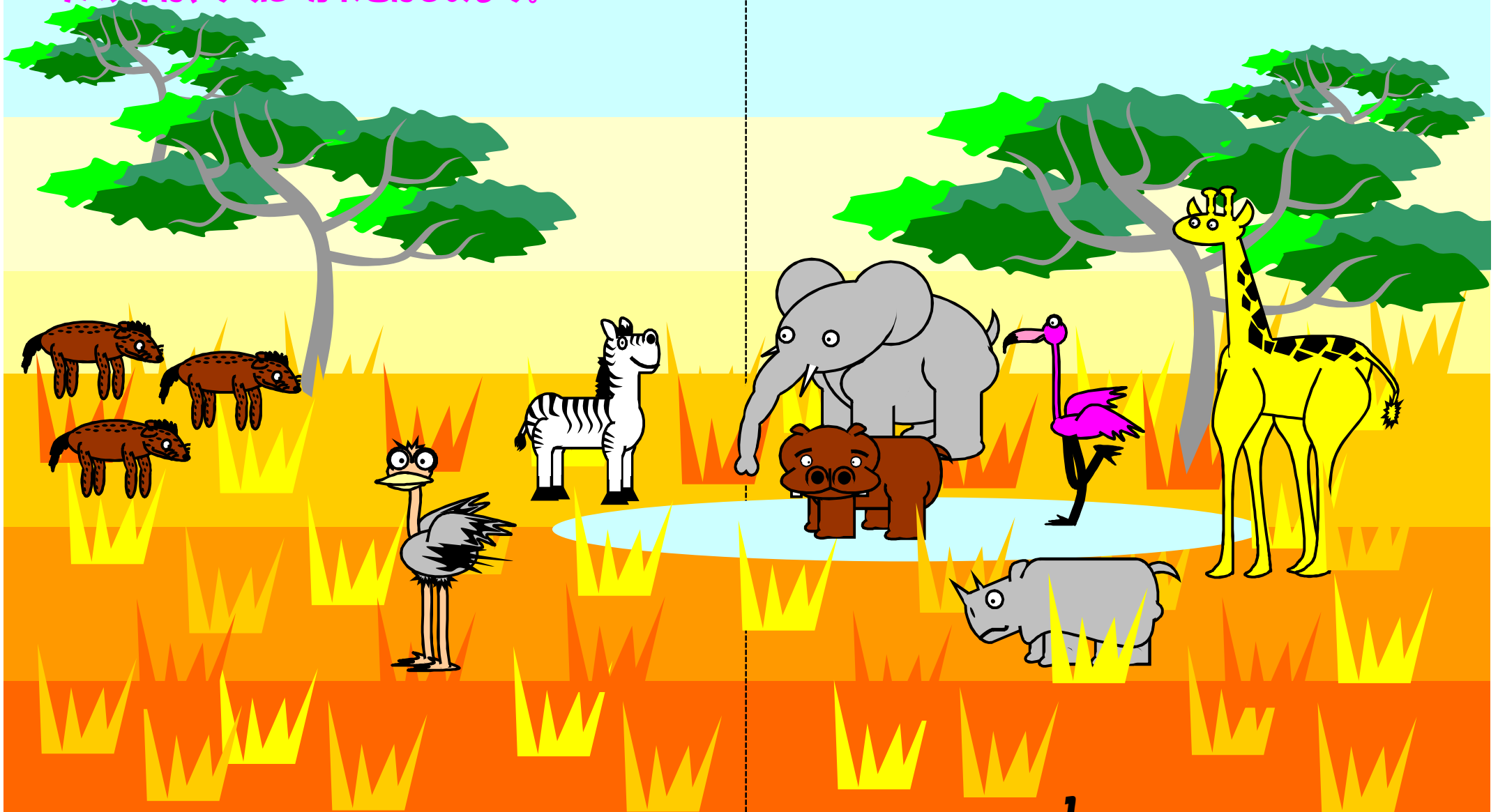
ここは、アフリカのサバンナ。

あめの ふる きせつは、すぐに おわり

サバンナは、すぐに かわきはじめます。

だんだん へっていく みずたまには、

さまざまな どうぶつたちが、あつまってきます。



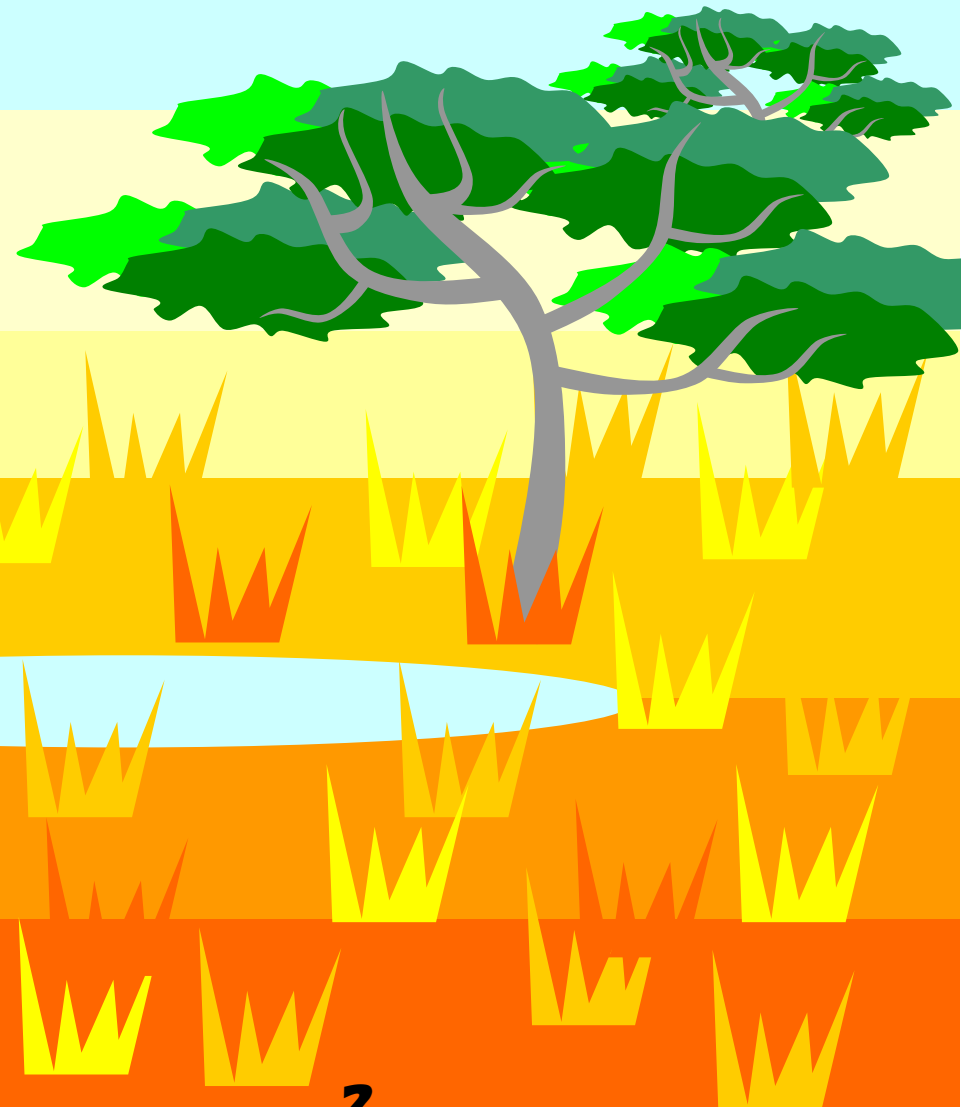
そして、みずたまには、ライオンも やってきます。

ライオンが、みずたまに ちかずくと、

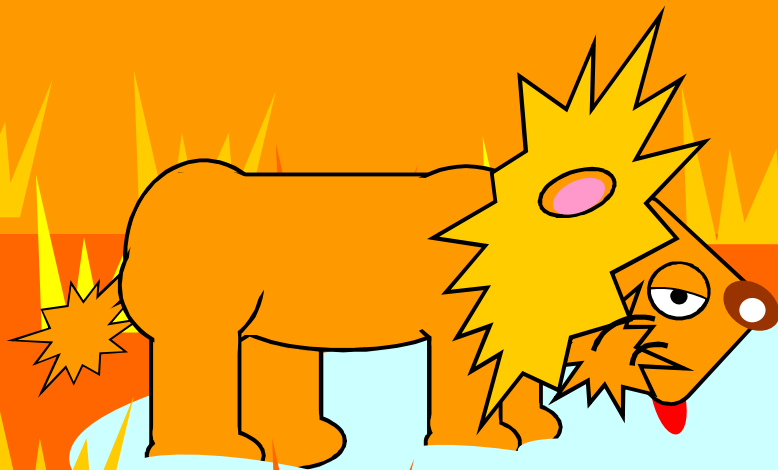
みんなの すがたは、みえなくなります。



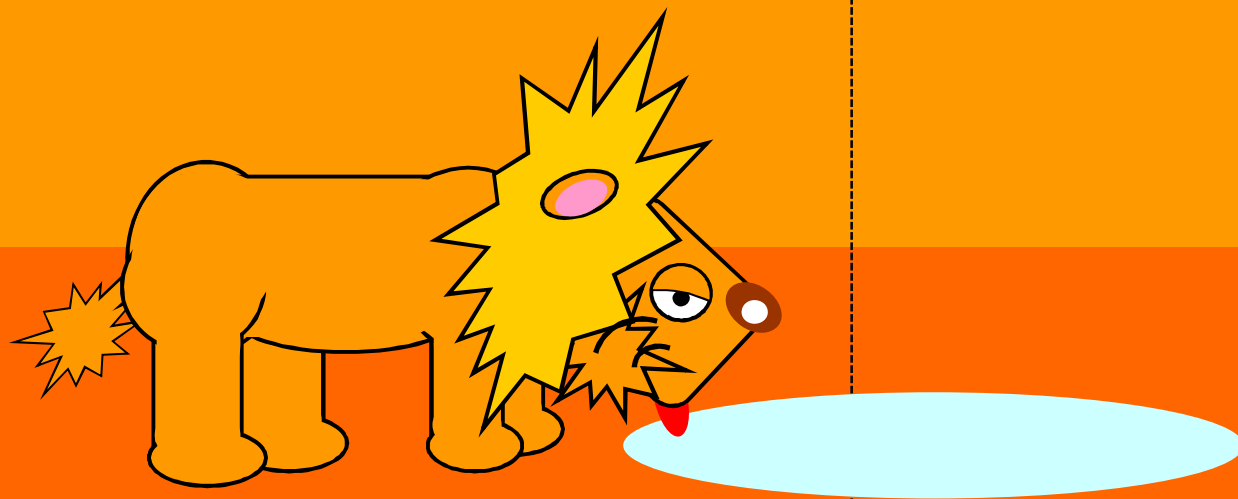
くびの ながーい キンが、はやくに ライオンを
みつけ、さっさと にげてしまう からです。



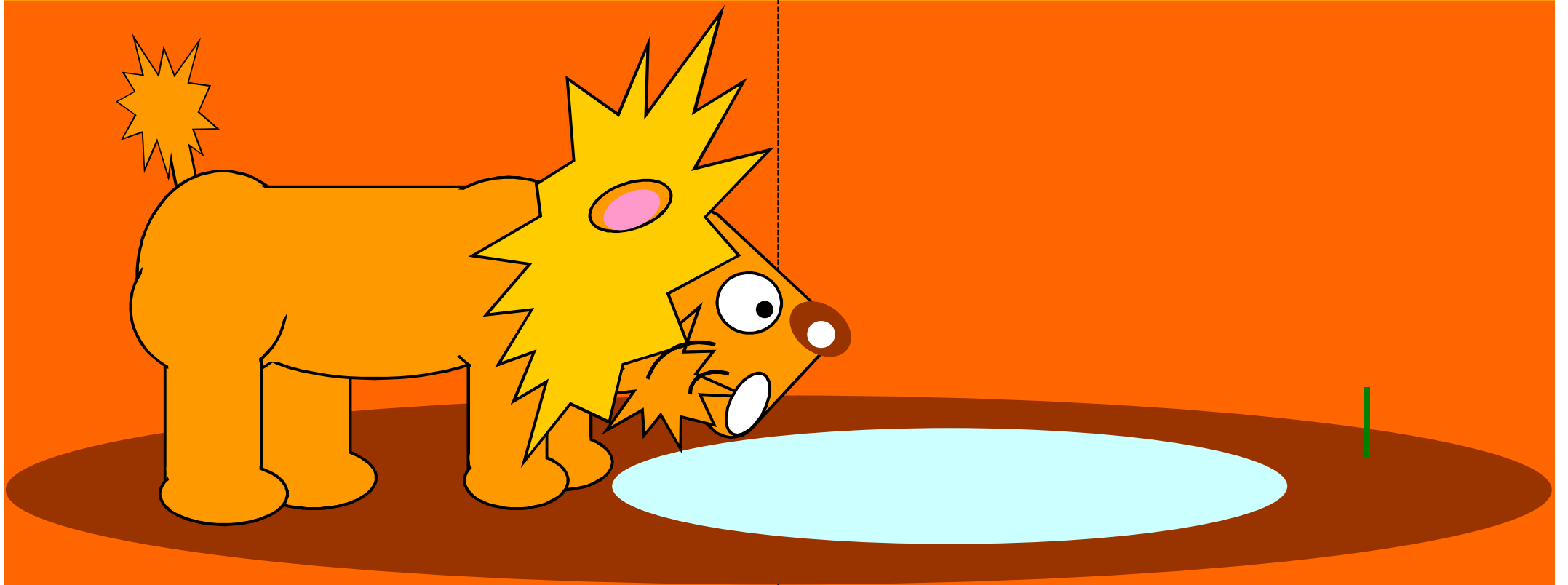
だから ライオンは、いつでも ひとりぼっちです
ひとりぼっちで、みずを のみます。
ライオンには、ともだちが ひとりも
いないのです。



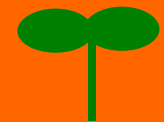
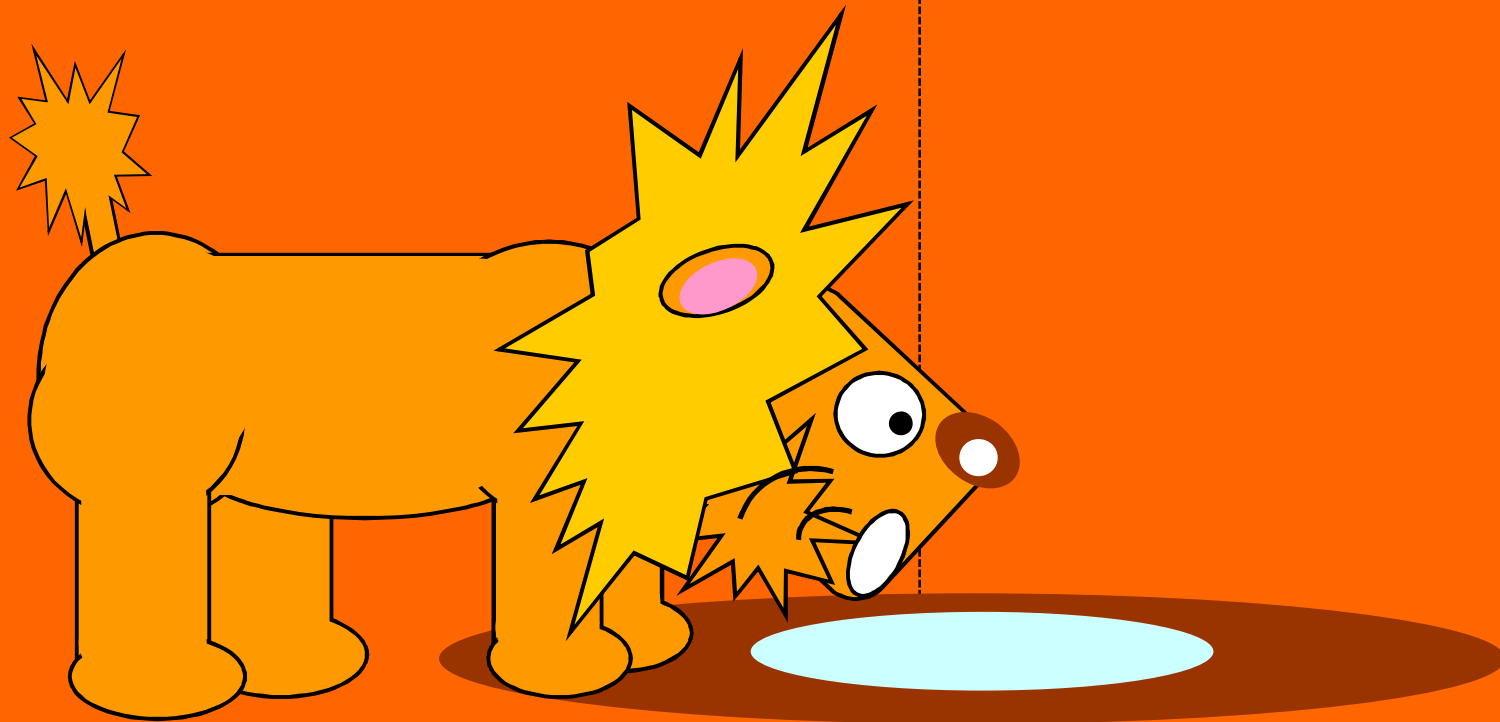
あめが ふらない サバンナは、
ひにひに ひでりあがってきます。
いつもの みずたまりも、もうだいふ
ちいさくなってきました。



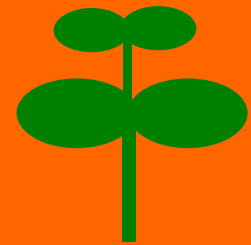
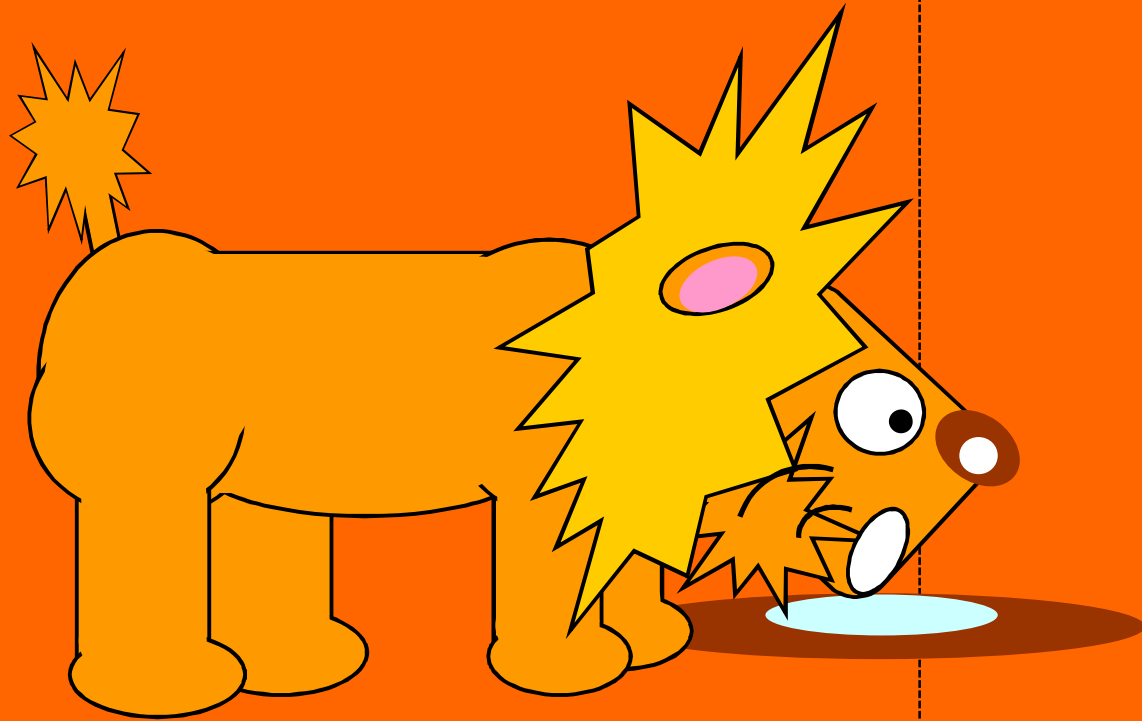
ライオンが、いつものように
みずたまいの みずを のんでいると
めのまえに ちいさな はなのめが
でているのに きづきました。



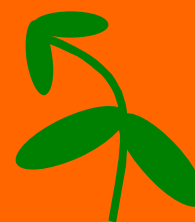
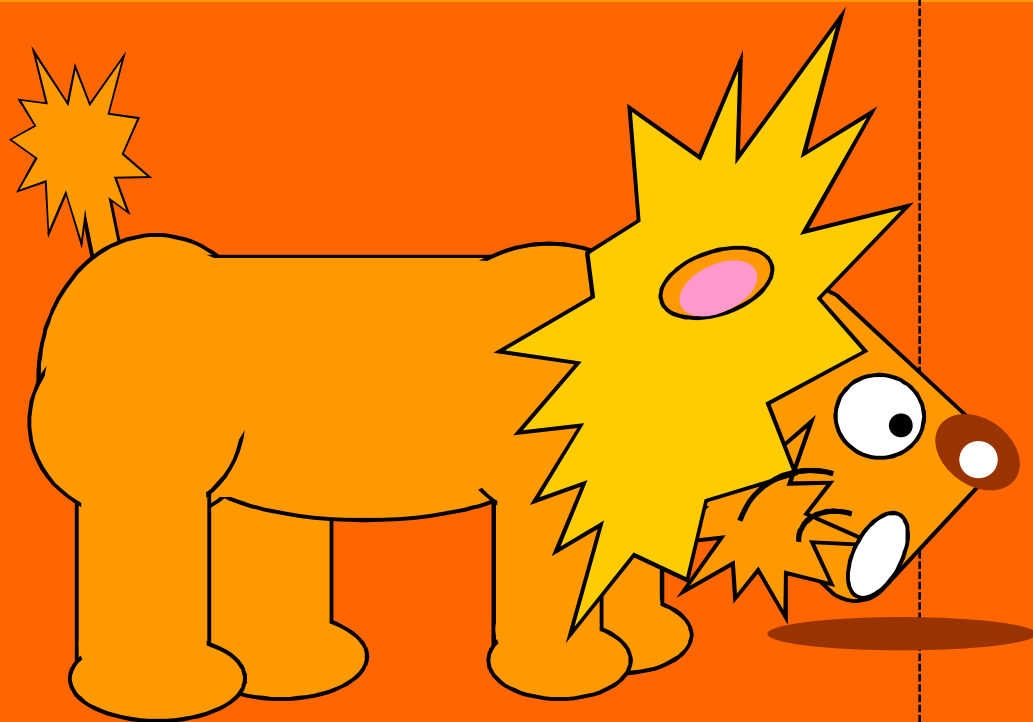
つぎのひ、ふたたび みずたまへ いくと、
みずたまは、ますます ちいさくなっていました。
けれど、はなのめからは ふたばが でていました。



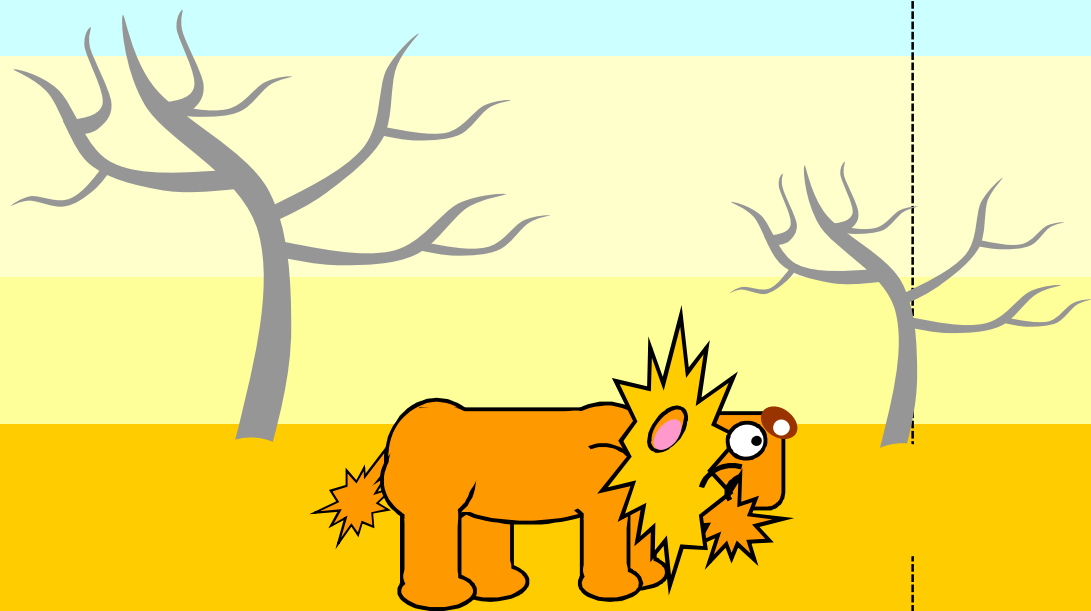
またつぎのひ、ふたたび みずたまへ いくと、
みずたまは、もっともっと ちいさくなっていました。
けれど、はのめからは ほんばが でていました。



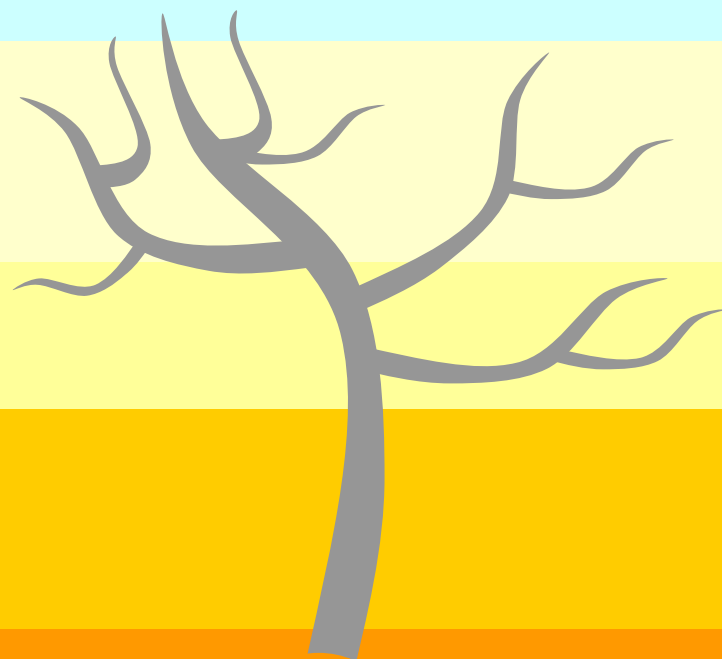
そのまたつぎのひ、ふたたび みずたまへ いくと、
もう みずたまは、なくなっていました。
そして、はのめは げんきがなく しおれかかっていました。



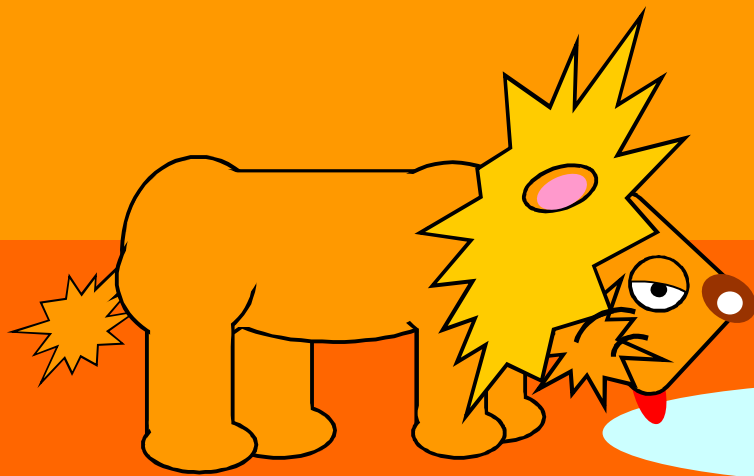
ライオンは、しかたなく ほかの みずたまりを
さがしに いくことにしました。



かわききった サバンナを もくもくと
あるきつづけました。



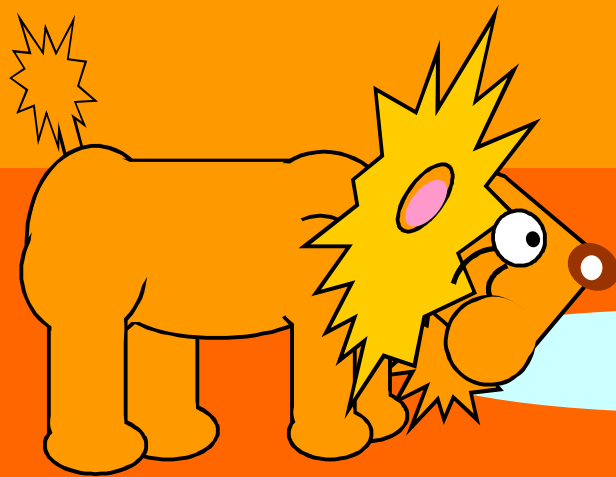
30ぶんほど あるくと、みずたまいが ありました。
ライオンは、かわききった のどを うるおすために
たくさん、たくさん おもうどんぶん
みずを のみました。



ライオンは、とても まんぞくして かえろうと
しましたが、ふと、しおれかかっている
はなのめの ことを おもいだしました。



そして、ふたたび ライオンは、みずたまいに
くちをつけると、みずたまいの みずを
のむことなく、おくち いっぱいに ぶくみました。
そしてまた てくてくてくと、あのはなのめがある
ぼしょをめざし あるいていきました。

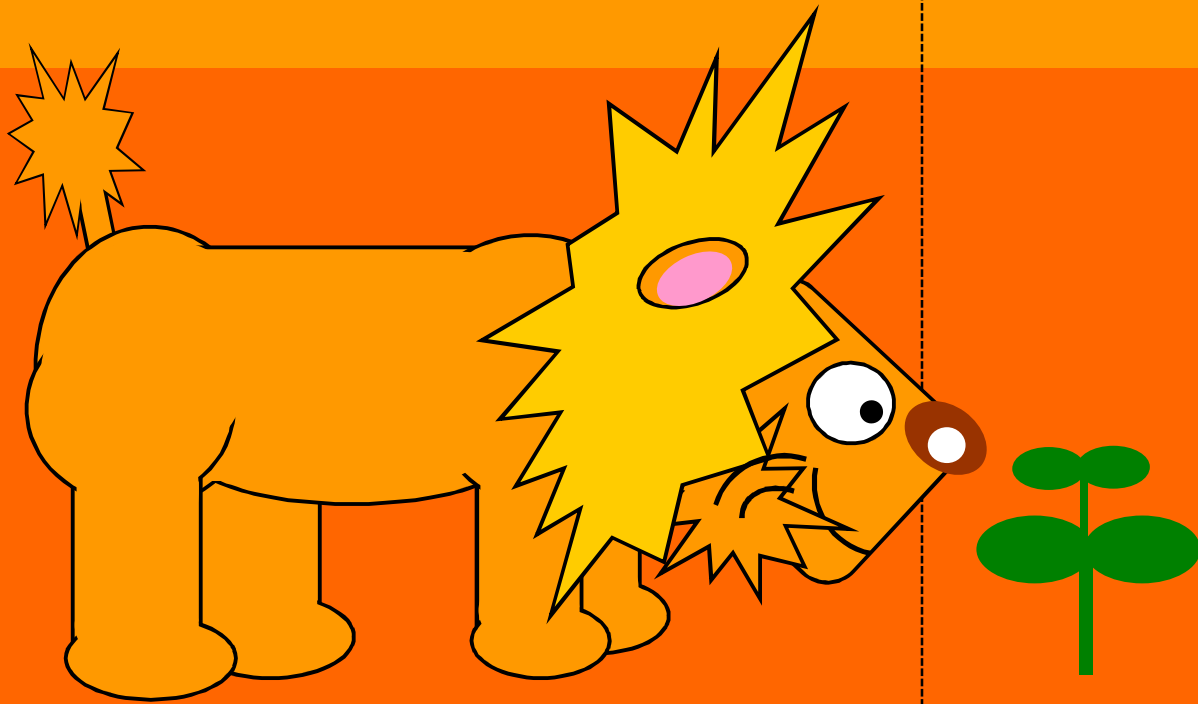


そして30ぷんほど あるくと、あの はなのめが
あるばしょに つきました。

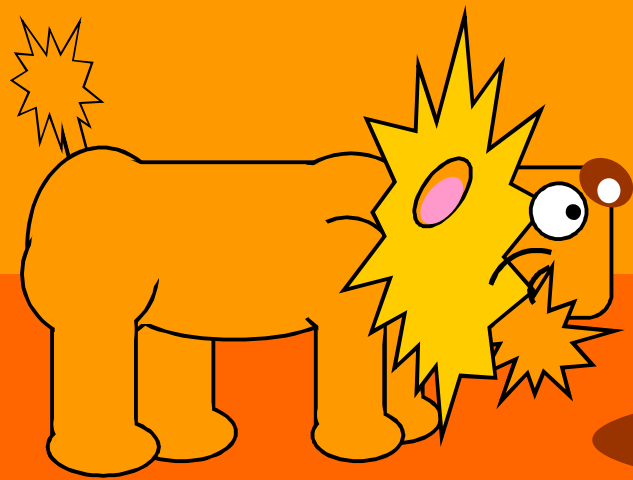
すると ライオンは、おうち いっぱいに ふくんで
もってきた みずたまいの みずを
しおれかけた はなのめに やりました。



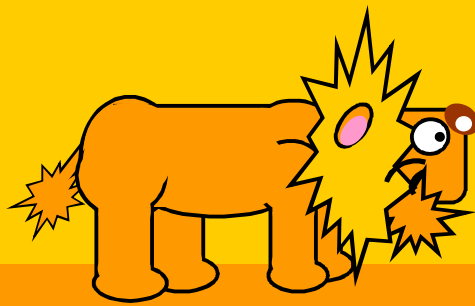
ライオンに みずを もらった はなのめは、
もどおりの げんきな すかたに ないました。



はなのめに みずを あげた つぎのひに、
ライオンは、きのうの みずたまりに やってきました。
すると、どうでしょう。
みずたまりの みずは、ライオンが のおだけの
りょうしか のこっていませんでした。

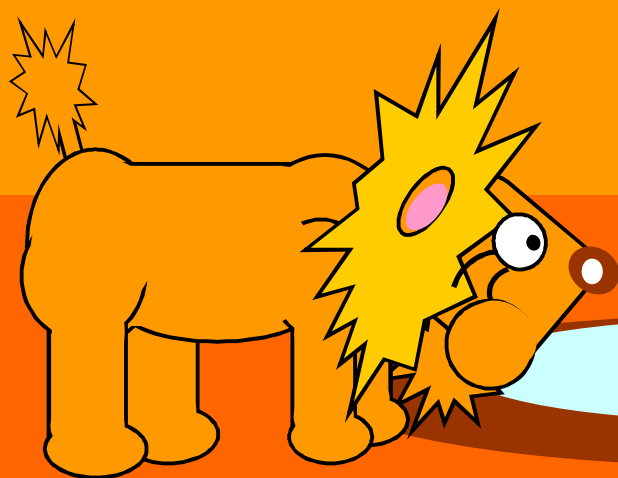


ライオンは、そのみずを くちにすることなく
また、ほかの みずたまりを もとめて
かわいた サバンナを あるきつづけました。



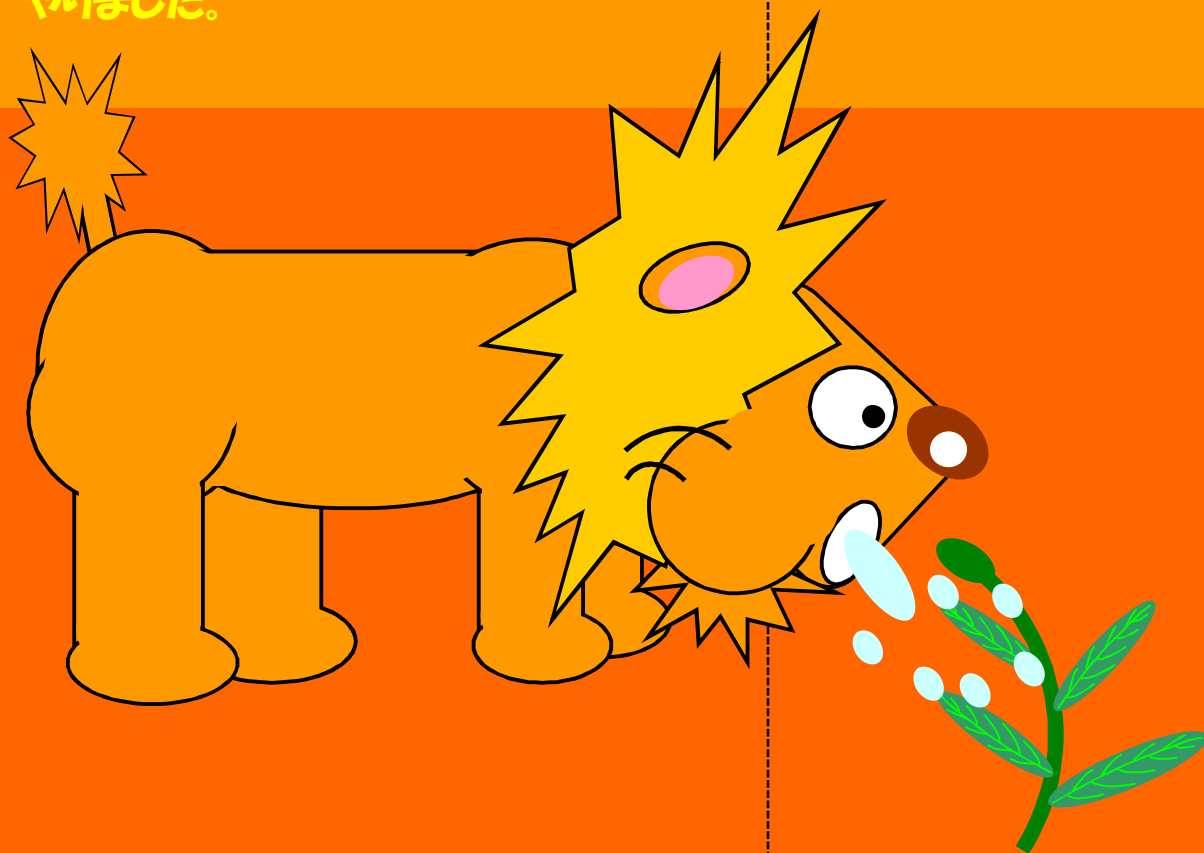
そして 30ぶんほど あるくと、みずたまが
ありました。

ライオンは、じぶんに ひつようなぶんだけ
みずを のおと、きのうと おなじように
おうちいっぱい みずをふくみ、ふたたび
またみちを かえっていきました。



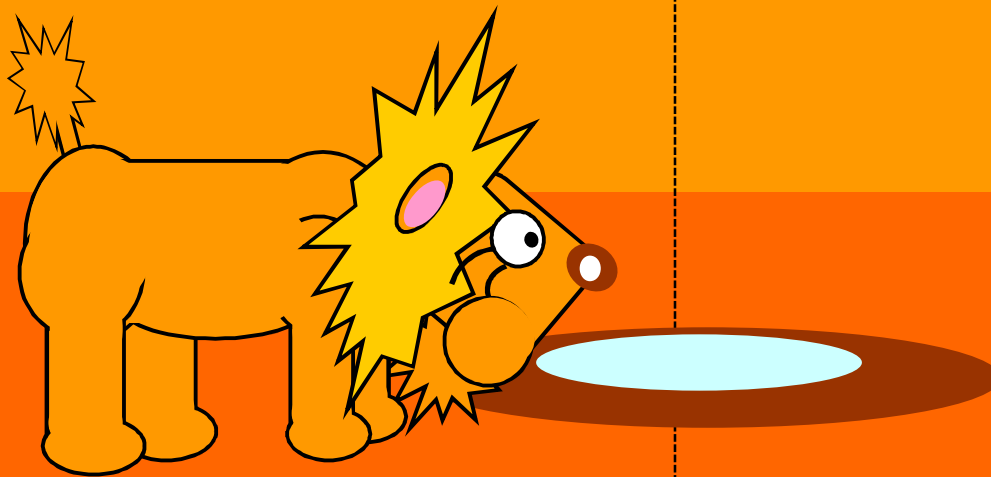
そして 1じかんほど あるくと、あの はなのめが
あるばしょに つきました。

ライオンは きのうとおなじように、おくち いっぱいに
ふくんで もってきた みずたまいの みずを
はなのめに やりました。

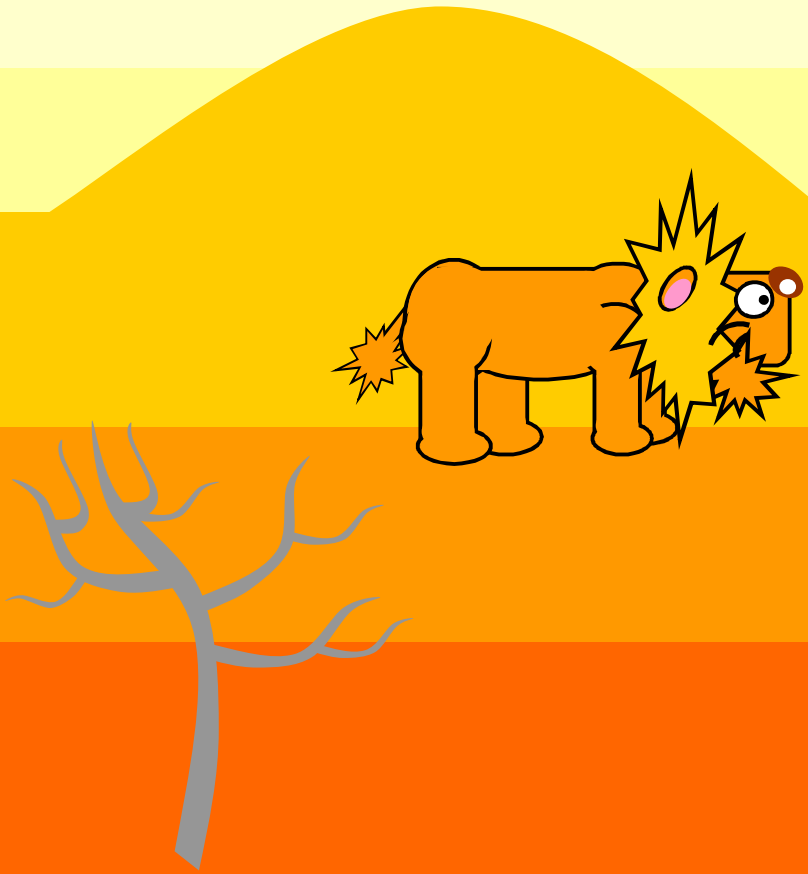


きのう げんきになった はなのめには、
ちいさな つぼみが できていました。
はっぱも、いっぱい せいちょうしていました。

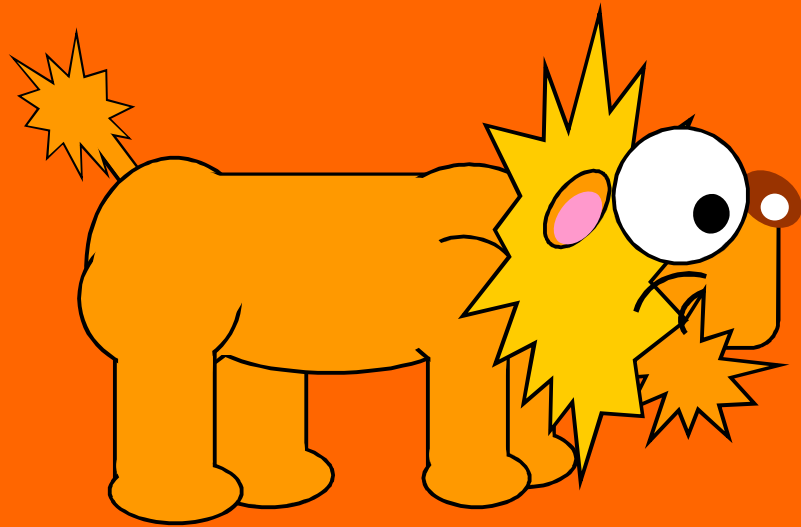
はなのつぼみに みを あげた つぎのひに、
ライオンは、きのうの みずたまりに やってきました。
すると、どうでしょう。
ここでも、みずたまりの みずは、ライオンが
のみだけの りょうしか のこっていませんでした。



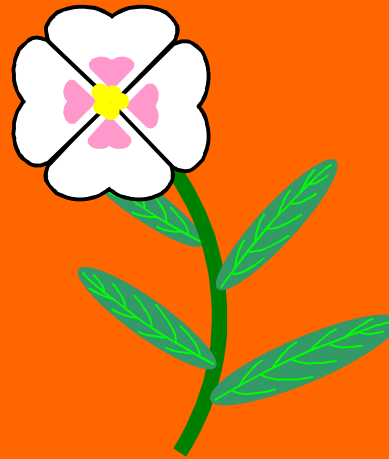
ライオンは、またそのみずを くちにすることなく
またまた、ほかの みずたまりを もとめて
かわいた サバンナを あるきつづけました。



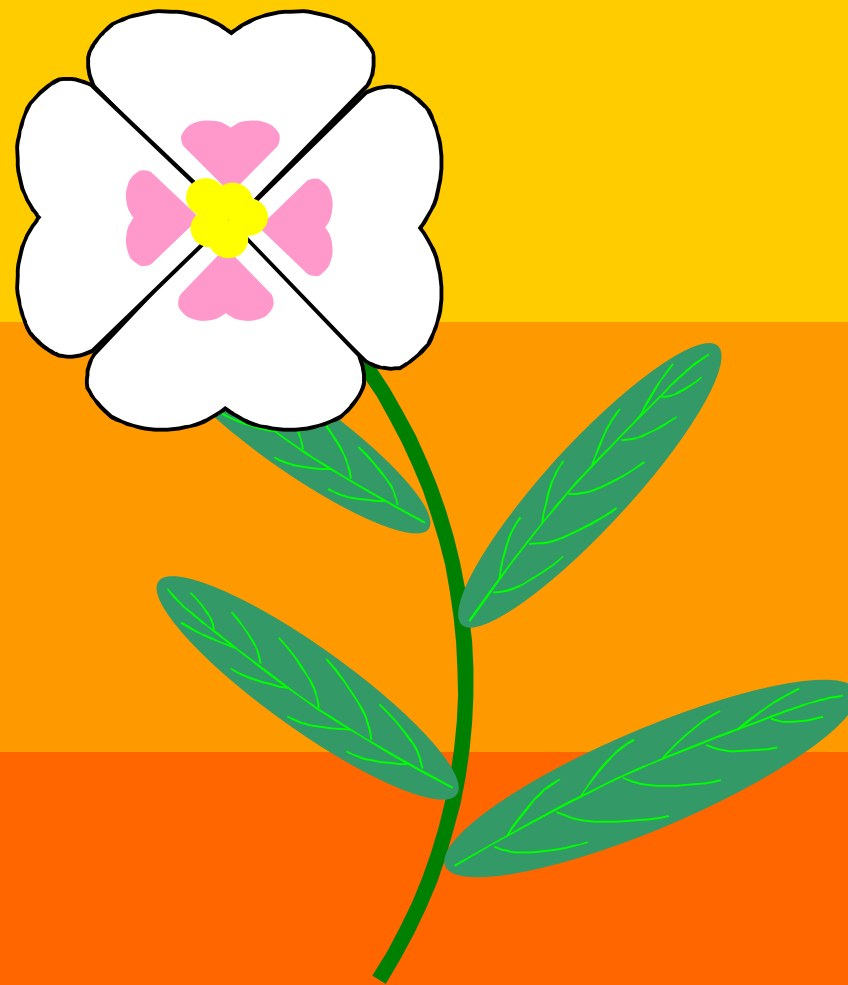
こうして ライオンは 1つの はなの ために、
くるひも くるひも、みずたまいを もとめ あるき、
そして みずたまいを みつけると、
じぶんに ひつようなぶんだけ みずを のみ、
のこりは そのはなのために、もってかえました。



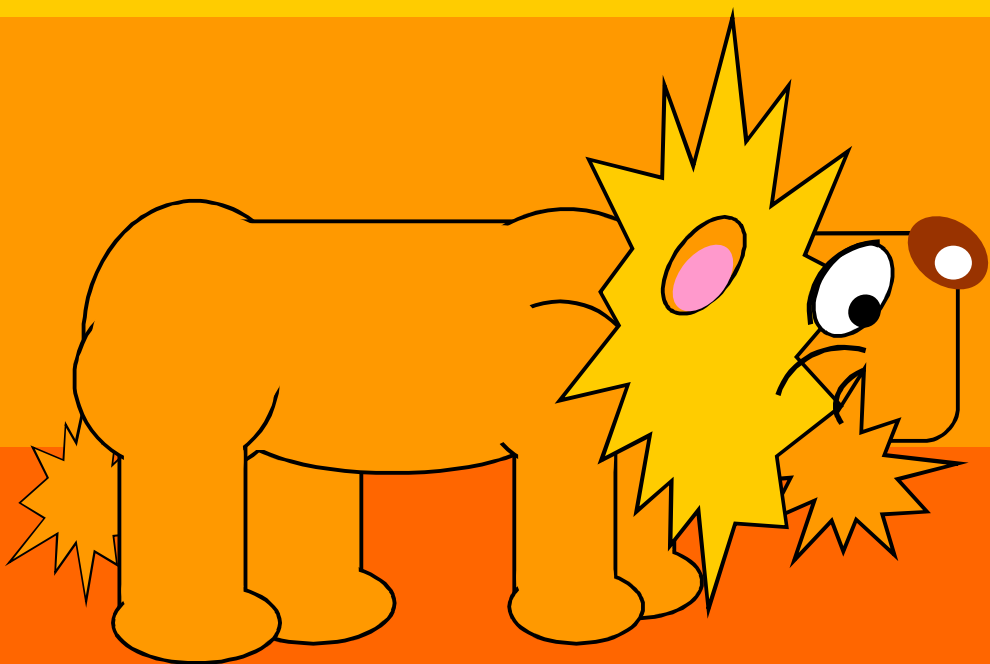
そして あるひ、いっばに せいちょうした はなは、
とっても きれいな はなを さかせました。



かわききった サバンナに、はな いちりん。
そのはなは、きらわれものの ライオンが、
まいにち まいにち、くるひも くるひも、
そのはなに みずを あげつづけた ことよって、
このせかいに はなひらく ことができたのです。



けれどしばらくすると そのはなは、
ライオンが みずをやみつづけたにも かかわらず、
かれて しまいました。
ライオンは、はじめて かなしい きぶんになりました。

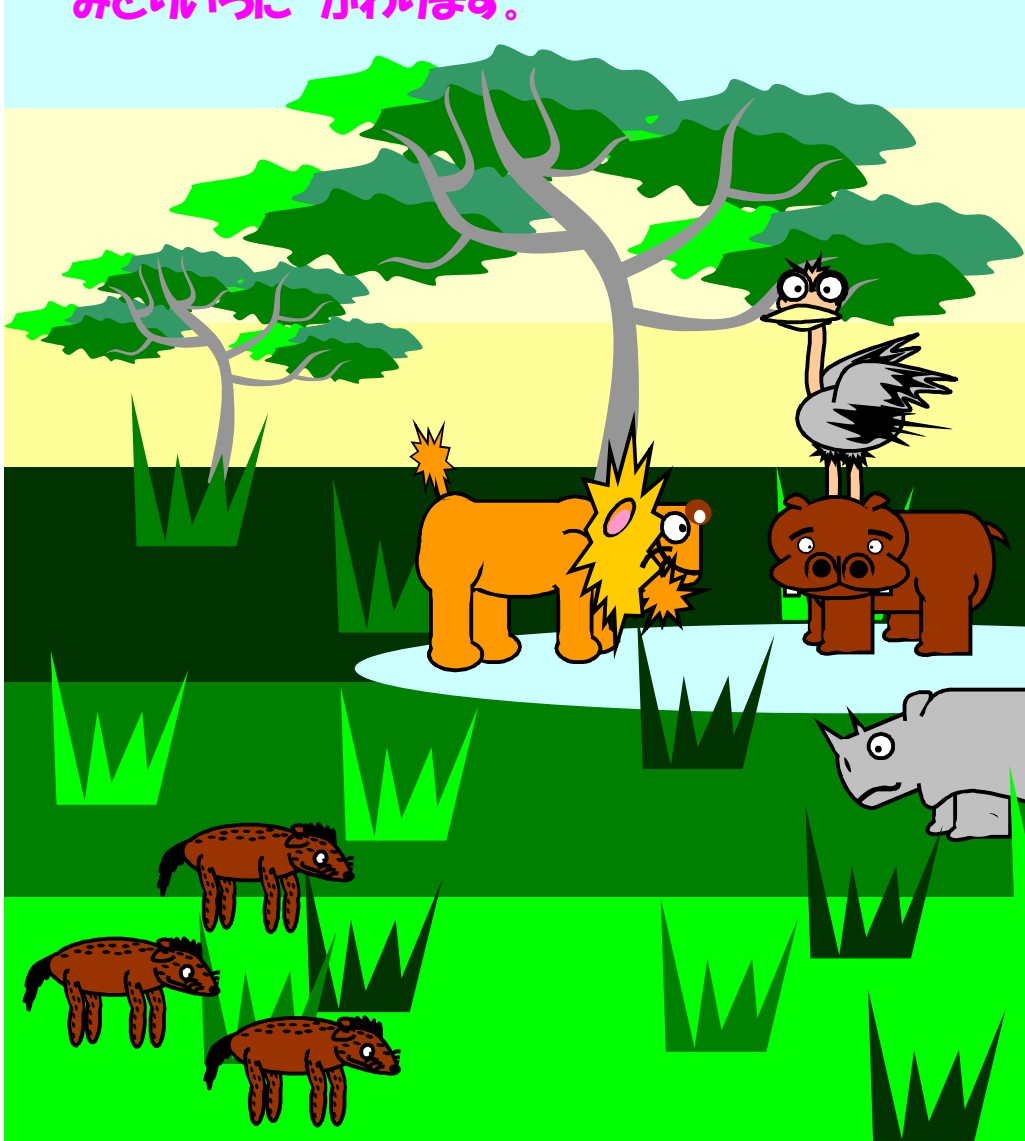


いままで ライオンは、かなしいということをし
らなかつたのです。
ライオンは いままで、おこることしか
しらなかつたのです。



やがて かわききった サバンナにも、
あめの きせつが やってきます。

あかちいろをした だいちが、あざやかな
みどいいろに かわります。



ライオンが いつものように、みずたまりに いくと、
みんなは にげることなく、ライオンを えがおで
むかえて くれました。

(おわり)

